

令和6年度 家庭科 授業改善推進プラン

大田区立おなづか小学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・各単元の導入時には、家庭での日常生活を振り返ったり、家族が毎日取り組んでいる家庭の仕事を調べたりすることで、自らの生活場面についての疑問・課題をもたせた。これにより、家庭生活づくりへ参画していこうとする意識を高めることができ、理解の深まりにもつながられた。
- ・調理実習を行うことができた。そして、夏休みの宿題の「実生活で生かす」経験へとつながられた。
- ・裁縫実習を行った。5 学年では「ソーイングははじめの一步」で、糸を適切な長さで切り、針に糸を通す裁縫の基本操作をスムーズに行えるようになった。また、玉結び、玉どめ、なみぬい、返し縫い、かがり縫いの針と糸での運針についても全員が出来栄えにも気を配って身に付けることができた。6 学年では、5 学年で身に付けた力を使って、刺し子のコースターを糸の配色に自分らしさを取り入りながら丁寧に仕上げる事ができた。

(2) 課題

- ・「生活をよりよく工夫する」という意識はまだ十分ではない。実生活の中での継続的な実践を通して、創意工夫しようとする力を身に付けてよりよい生活を営もうとすることが課題である。そのためにも、日々の生活を見つめ、見直すことができるようにすることを出発点とし、「実生活で生かす」ことを目指していく必要がある。また、家の仕事の量や家の負担を実感するために保護者に家での様子を聞く機会をもつような保護者への働きかけを行い、児童の意欲の継続を図る。

2 分析（観点別）

① 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
○知識や事実を正しく獲得する面白さを感じ、理解もしっかりできるようになった。各種の資料や情報を自ら得たり、読み取ったりする活動を多く取り入れる必要がある。 ○家庭生活での実践経験の差が大きい。授業が初めての経験となる児童も多いので基本を丁寧に指導する必要がある。	○家庭科学習を通して、自分自身が家庭生活を創造していく一員であることを自覚し始めたと言える。友達の活動の進め方や作品から学び合い、工夫へとつながっている児童の姿も見られる。	○全体的に関心をもって取り組み、実習への意欲は高い。しかし、実生活への計画的な取り組みに対しては活動の継続が不十分である。自分の生活の中で実践・継続する態度の形成が課題である。 ○技能面での差が大きく、細かい作業を継続的、主体的に取り組めない児童の姿が見られた。

3 授業改善のポイント（観点別）

(1) 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
○縫い物では、ICTを活用し、玉止め、玉結び、縫い方など手順がよく分かるよう、実際にやっているところを電子黒板に大きく映す。 ○家庭との連携を深め、継続的な活動の場作りをする。 ○地域支援本部や保護者のボランティアに協力を要請して、ミシンや火を使う調理実習において安全を確保し、基礎技能を高める。 ○食事の役割や栄養を考えた食事の	○言葉や図表を用いて、生活をよりよくする方法を考えたり、実習で体験したことをまとめたり、発表したりする表現活動をより充実させる。 ○調理や裁縫の実習を伴う教科では、生活場面を想起させて課題を見つけて話し合いの機会をもたせたり、生活に必要な物を工夫する視点で自分のアイデアを作品に取り入れたりするなどの問題解決型の学習を行っていく。	○手、身体、知恵を使って、「つくる楽しさ」・「できる喜び」を知り、「家族に喜んでもらえる」うれしさを十分に感じ取れるようにする。紹介や発表の活動を通して自分ができたことを自認するとともに、友達との学び合いを生かし、一人でできることを広げさせる。 ○調理実習や製作活動の体験的な学習を通して、手作りの良さや楽しさを実感させ、児童が物を大切にしたり、

取り方、調理などの学習を重視する。食育の観点からも五大栄養素の基礎的事項についておさえる。実習したことは、家庭でも実践し、家庭生活を大切にする心情を育む。	○「実生活で生かす」ことを目指し、学んだこと実践する課題を長期休業中に出す。	食事など家庭生活の中で感謝の気持ちをもったりできるような授業を展開する。 ○製作活動では、作業の順序、作業時間、工夫するところなど児童一人ひとりに応じためあてをもたせる。
--	---	--